

フジミドリの採集記

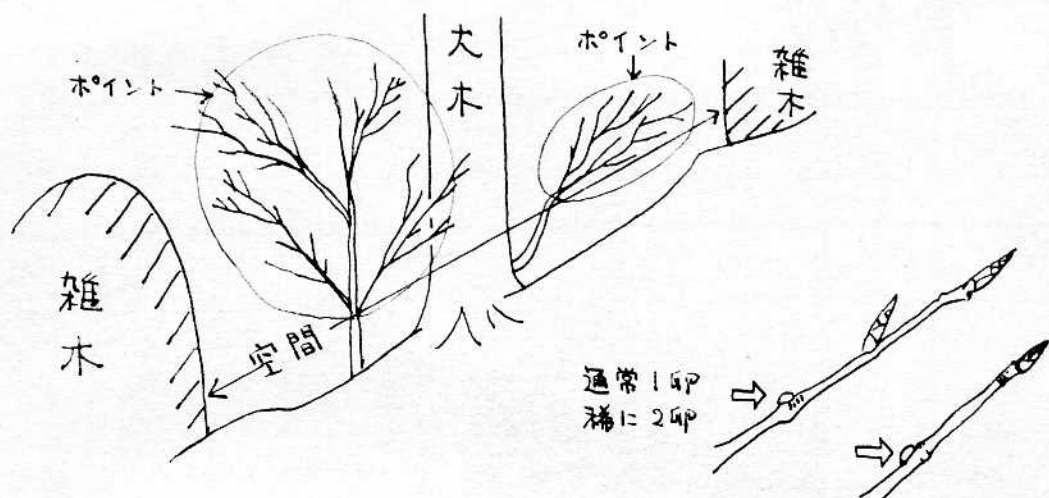
井村正行

以前よりフジミドリの採卵は困難であるということは、みなさんの知るところと思う。私の過去3度、医王山でのフジミの採卵は、2〜3時間をかけて1卵というのが2度で、1時間で2卵というのが2度あった。ただけであった。(この時入場登氏も同時に1卵採集)ところが入場氏が何とフジミの卵を短時間で6卵採卵(3個は寄生卵)したというので、1978年11月26日入場氏の案内で、松本和馬、松井正人の両氏とともに、4人による採卵を試みることにした。

当初の予定を大幅に過ぎて12時半ごろ出発。天候は曇り、雨を覚悟の決行である。目的地の白山釈迦道に近づくにつれて、小雨がとぎれなく降るようになる。やがて車を降り、入場氏の案内で採卵した場所を教えてもらう。各自採集場所を確認した上で、思い思いの場所で採卵にかかると。

◎成果：第一報は松井氏より、「採、た」の声がかかる。それから約2時間(2:30〜4:30)で、松井氏29卵、入場氏26卵、井村氏23卵、松本氏11卵、計89卵の成果が上がる。追記として、採卵したものの中に2〜3割の寄生卵を確認する。(卵に穴のあったものは、全て寄生卵と仮りにした。)

◎採集のポイントとして：ポイントは大木の真下の小木又は、ふこばえで、地上50cm〜3m位の間に多く見られるようだ。(ただし、林の中的小木でもあることはある。が、厚葉でしか発見できなかった。)そして、大木の下にある程度の空間があれば最高の条件といったところである。1ヶ所で1〜7卵程度、3〜4卵が多い。



ポイントと産卵位置

犀奥の蝶

松井正人

ブナ才峠より奈良岳までの尾根道で見られた蝶を記す。

1978年8月20日 晴・大風

大門山付近 キアゲハ 1ex, ヒメキマダラヒカゲ 数頭
 赤摩木古山付近 キアゲハ 1ex, キベリタテハ 1ex
 赤摩木古山・見越山間 イチモンジセセリ 99数
 見越山付近 キアゲハ 2exs (頂上), キベリタテハ 1ex
 奈良岳付近 キアゲハ 4exs (頂上), キベリタテハ 3exs

その他、キチョウをどこでも見る。

なお、当日はPし学園が前日に続いてまたしても9回裏の逆転サヨナラを演じ、高知商を泣かした日である。

(連載) 僕とゼフ —その1—

ゼフとの出会い — 吉村久貴 —

中学・高校と、小学校1年の虫とりと変わりのなか、た僕にと
って、図鑑で見るゼフィルスはおこがれの的でした。たまたま、
高校2年の時島々谷を歩いている際、道端の下草で休むミドリシ
ジミ早(0)を採、ただけで思いはますますのるばかりでした。
今年になつて、ちょっと暇ができるようになったので、医王山
まで足を伸ばすようになりました。5月頃に一度ミヤマカラスア
ゲハを捜して医王の里あたりまで行、たのが最初でしたが、6月
の13日に、また医王の里まで行きました。ゼフといつても、どん
な風にいるものなのか、どの位長い竿なら良いのか、サッパリわ
かりません。本に載っている通り、道際のクヌギ、コナラなどの葉
枝をたたいた時、あざやかな橙色のものが飛んできて目の前の葉
に止まりました。ヒュウモンだと思ったけれど、あまりにもヒラ
ヒラ飛んできたのが良く見ると、アカシジミでした。グロスロッ
トの短い竿でしたが、網に入れた時、口をひねったまま、ヤッタ
ーと飛び上がりました。苦しいサッカーの試合で、シュートを決
めたような気分でした。僕のようにゼフを採、た経験のない者が
本で見てもミドリ色のものはいるような気がするけど、本当にオ
レンジの小さなチョウがいるのかというのが、本当のところでもし
たら、喜びもひとしおでした。三角紙に収めてから、よしもう
一匹、と思つてムチャクチャに枝をたたきだすと、また一匹出ま
したが、その竿ではヒビきません。そこで決心して家まで本
なぎの竿を取りに帰、こゝろまで来ましたが、結局、その日の戦
果は2匹だけでしたが、緑色でないゼフを採、た喜びは、今も忘
れません。

(医王山でのデータは既刊号参照)

連載はこのあと、

その2 医王山で嵯峨井氏、松井氏と出会う

その3 ミヤマカシミドリ早、アイノミドリ等の採集

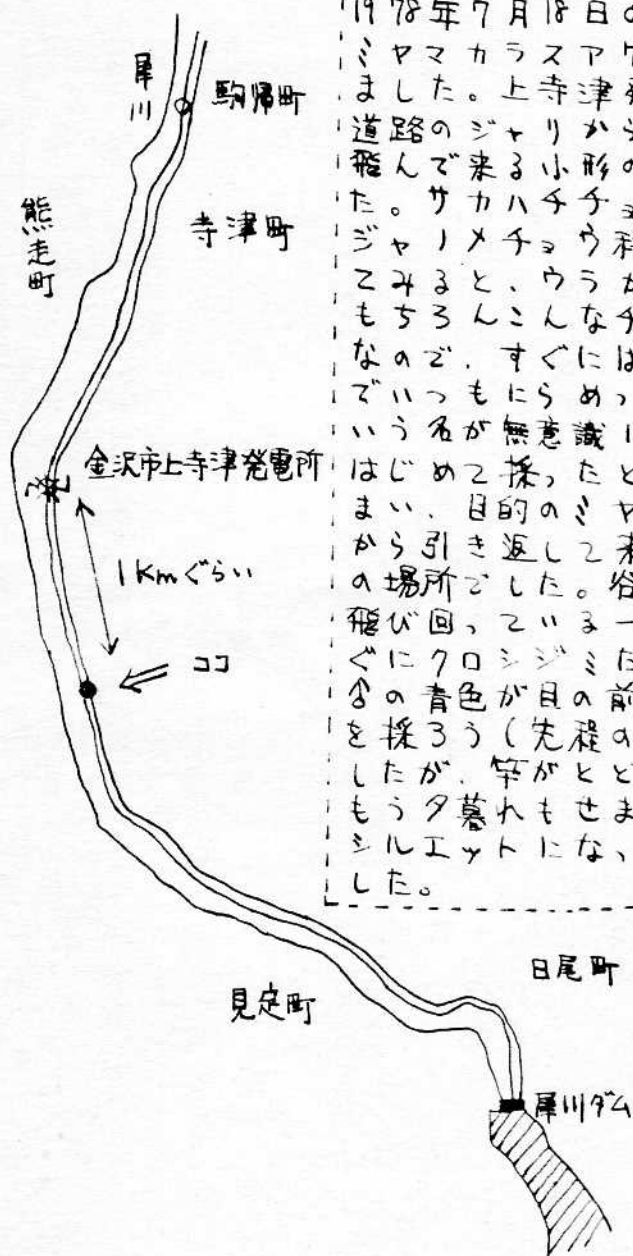
その4 重山道路でのジョウザンの乱舞、白兀での野中氏と
の出会い

その5 ノジミドリ、最近の採卵

と続く予定です。

犀川上流のクロシジミ

吉村久貴



1978年7月18日の午後、駒帰～犀川ダムの道を、ミヤマカラスアゲハなどを採りながら歩いていました。上寺津発電所を過ぎ2km程行った時、道路のジャリから10～20cmあまりを意外と速く飛んで来る小形の黒い小さなチョウを認めました。サカハチチョウなんかよりは力強いので、ジャノメチョウ科のチョウだ3うと思て採、こみると、うらがきたない模様のチョウでした。もちろこんなチョウを野外でみるのも初めてなので、すぐにはわかりませんでした。図鑑でいっもにらめ、こして「クロシジミ」という名が無意識に浮かんできました。その時は、はじめて採ったという感激もなく、三角紙にしまい、目的のミヤマカラスアゲハも採、このダムから引き返して来た時、やはり大体同じくらいの場所でした。谷側のネムの花で吸蜜しながら飛び回、こい一匹を見つけました。今度はすぐにクロシジミだとわかりました。図鑑で見た分の青色が目の前に浮かんできたので、是非を採ろう（先程のは♀）と思てねば、こいしましたが、竿がとどかないままあきらめました。もう夕暮れもせま、ていて、ネムの花にとまるシルエットにな、たクロシジミが印象に残りました。

採集品は♀でしたが、ややボロです。来年も調査に行きたいと思います。

データ:

採集日	1978年7月18日
採集地	金沢市駒帰～犀川ダム
採集者	吉村久貴

1974年度沖縄採集旅行採集蝶一覽

その1 松井正人

1974年に沖縄採集旅行で採集した蝶を記録する。

アゲハチョウ科

種名	個体数	採集地	採集月日
ナガサキアゲハ	1♂♂	源河川 (本)	8. 5
	1♂	真喜屋 (本)	8. 5
	1♂♂ 5♀♀	ヌーハー (本)	8. 6
	2♂♂ 1♀	ヌーハー (本)	8. 7
クロアゲハ	4 exs	源河川 (本)	8. 5
	1♂ 3♀♀ 5 exs	ヌーハー (本)	8. 6
	3♂♂ 1♀	ヌーハー (本)	8. 7
	2♂♂ 2♀♀	川良山 (石)	8. 8
	6♂♂ 2♀♀ 2 exs	宇良部 (与)	8. 12
	1 ex	祖納 (西)	8. 17
ジャコウアゲハ	1♂ 4 exs	バンナ (石)	8. 9
	3♂♂ 1♀	宇良部 (与)	8. 12
	2♂♂ 1♀	祖納 (西)	8. 15
	1 ex	祖納 (西)	8. 17
	1♀	吉原 (石)	8. 22
モンキアゲハ	2 exs	ヌーハー (本)	8. 6
シロオビアゲハ	2 exs	源河川 (本)	8. 5
	1 exs	ヌーハー (本)	8. 6
	2 exs	川良山 (石)	8. 8
	2 exs	バンナ (石)	8. 9
	1♂ 1♀	川平 (石)	8. 14
	1♂ 1♀ (パンモリ型)	知念 (本)	8. 26
オキナワカラスアゲハ	2♂♂	ヌーハー (本)	8. 6

カラスアゲハ	4 exs 1 ex 1 ♂ 5 exs 1 ♂ 5 exs 1 ♂ 2 ♂♂ 1 ♀ 2 ♂♂ 2 ♀♀ 3 ♂♂ 5 ♂♂ 6 exs 1 ♂ 2 ♂♂	川良山 (石) 8. 8 バンナ (石) 8. 9 川平 (石) 8. 14 祖納 (西) 8. 15 カンピラ (西) 8. 16 祖納 (西) 8. 17 千立 (西) 8. 18 白浜 (西) 8. 19 白浜 (西) 8. 20 祖納 (西) 8. 21 荒川 (石) 8. 22
アゲハチョウ	1 ♂	祖納 (西) 8. 15
アオスジアゲハ	1 ex 1 ♂ 1 ♂ 3 exs 1 ♂	ヌーハー (本) 8. 6 宇良部 (与) 8. 12 比川 (与) 8. 13 カンピラ (西) 8. 16
ミカドアゲハ	3 ♂♂ 1 ♂	カンピラ (西) 8. 16 祖納 (西) 8. 17
ベニモンアゲハ	4 exs 3 exs 1 ex 1 ex	川良山 (石) 8. 8 バンナ (石) 8. 9 川平 (石) 8. 14 バンナ (石) 8. 23

以上11種

(本)=沖縄本島 (石)=石垣島 (西)=西表島 (与)=与那国島

会合をハシバゼミナールにしたいと思います。
の呼称 いかがでせうか？ (百万石有志)

(クロ)コムラサキ 飼育失敗記

松井正人

1978年3月22日鳳至郡門前町にてナガバカワヤナギより(クロ)コムラサキの幼虫25exsを採集し、72exsについては4月4日より現地で採集してきた柳を与え、残り18exsについては4月13日より自宅付近のシダレヤナギを与え、各々別々の容器に入れて記録を取った。

それぞれの幼虫は、ヤナギの樹皮ごと採集し、上着のポケットに入れて持ち帰り、新葉を与えるまでプラスチック容器のまま外界温度にしておいた。

飼育記録

A. 4月4日組

1. 食いつけずみからびる (13日)。
2. " (")。
3. " (")。
4. 食いつく(?)。頭の付け根がふくらみ脱皮前のような (13日)。みからびる (21日)。
5. 食いつく(?)。体は黄緑色に変色、頭は変化なし (13日)。みからびる (28日)。
6. 食いつく(?)。体は黄緑色に変色、頭は変化なし (13日)。みからびる (19日)。
7. 食いつく(?)。体は黄緑色に変色、頭は変化なし (13日)。寄生蜂の蛹さる (27日)。

B. 4月13日組

6exs はすでにみからびていた。

8. 食いつく (14日)。みからびる (19日)。
9. " (")。 " (19日)。
10. " (")。 " (17日)。
11. " (")。 " (19日)。
12. " (")。 " (17日)。
13. " (")。 " (19日)。
14. " (")。 " (18日)。
15. " (")。 " (19日)。
16. " (")。 " (21日)。

- | | | |
|-----|-----------|----------|
| 17. | “ (“) 。 | “ (18日)。 |
| 18. | “ (“) 。 | “ (15日)。 |
| 19. | “ (“) 。 | “ (14日)。 |

※ () 内は日付であり、(?) は日付不明である。

以上のように1個体も脱皮せずに全滅してしまい、蝶さんにたいへん悪いことをしてしまった。長い間蝶の飼育をしているが、こういうことは初めてであり、全く原因がわからない。誰か良いアドバイスをお願いしたい。

又、今季も教人の越冬幼虫組が活躍しているが、前回の越冬幼虫組は全員羽化をみなかったようであるので、くれぐれも御注意下さい。

編集集中記

本来なら「翔」は8ページが公約ページ数であった。ところがギャクション・ギャクション。気が付いてみるとここははや8ページめである。どうも収まりがつかなくなったので増大号にしてしまう。読者のみなさんお許し下さい。

(網振童子)

——白山尾添川付近の昆虫之種——

松本和馬

1978年10月9日、白山尾添部落の少し上流の尾添川川原で、ウラギンシジミとミンミンゼミを確認した。

ウラギンシジミ 3頭目撃

ミンミンゼミ 1頭の鳴き声を1回確認

秋には白山の谷筋に沿ってかなり奥までウラギンシジミが見られることは、石川県の蝶の同好者の間では常識化しているが、「中島」(武藤1971)※の他に記録を見ないので報告したい。ミンミンゼミは、この付近としては比較的珍しい記録と思われ、本年(1978)のこの時期には殊に平地でもあまりセミの声が聞かれなくなってい

たこともあるので記しておきたい。

※石川むしの会特別報告Ⅱ 石川県の蝶相

11月会合の報告

1978年11月29日よる
於、橋場清氏宅

参加者 高羽、入場、橋場、野中、竹谷、井村、松井、松本、
吉村、笹川（敬称略）

（毎度のことですが、橋場さんのお宅には大変お世話になって、
申し分ありません。野中さん、お菓子ありがとうございます。）

まず橋場氏が採集してきた大量のオサを前に雑談が始まった。
「それにしてもすごい数やなあ、何を採っても……」

長い長い雑談の後、ゼツの話になる。

○ヒサマツミドリをさらに探そう。（井村）

・湯涌へ行く途中にウラジロガシのいい所がある。（野中）

・檜見の神社のあたりにウラジロガシが多い。（井村）

Never give up !!

○ウラキンの採卵をしよう。（野中）

・医王山の成虫を採った所（牧場の近く）で……（松井）

・湯涌～刀利ダム間を右へそれた所で幼虫を採った（寄生されて
いた）。その本は覚えている。（野中）

・県産ゼツでウラキンは採卵で記録を出す上でネッ？だろう。
ウラゴマダラもみんな採れずにいる。（松本）

・「ふたつとも僕が採るでしょう。」（入場）←アハ

○フジミドリ、能登では採れないが

・高州山はブナが少しい。宝立山には多い。（入場）

・石動山はブナが少ない。（高羽・入場）

・宝達山は伐採されたがブナは残っている。（……）

○猿山付近のカシワでハヤシ、ウラジロミドリは採れないが、
（井村・野中）

○一か所に集中しないで調査を分担しては？（井村）

ゼフィルス採卵調査分担案

- 12/7. 金沢・井村・松井・松本組：近郊でヒサマツ採し。
 ・橋場・野中・松岡・嵯峨井組：能登でクロコウサキ幼虫採集と兼ねて猿山のカシワでハヤシ・ウラジロ採し。
 12/8. 野中・松本・松井・吉村組：どこか。ウラキシ・ウラゴマダラをねらう。

○次回の会合は 12/某日(たぶん月曜日)。ゼフの採卵記録を持ち寄り
 ひとまずのとりまとめをしましょう。

以上でした。(網振童子)

採卵速報：上記計画の実行結果のみ簡単に知らせ。

12/8. 野中・松本両青年はめどなく成功いたしました。12/7. 井村・松井組・ヒサマツは今回も出ず。ウラゴマダラ・猿山など。橋場・野中・松岡・松本組はコウサキのみでカシワ・シジミはたぬでした。

目次	フジミドリの採集記(井村正行) -----	1
	犀奥の蝶(松井正人) -----	2
	僕とゼフーソー—ゼフとの出会い(吉村久貴) -----	3
	犀川上流のクロシジミ(吉村久貴) -----	4
	1974年度沖縄採集旅行採集蝶一覧(松井正人) -----	5
	(70)コウサキ失敗記(松井正人) -----	7
	白山尾添川付近の昆虫2種(松本和馬) -----	8
	11月会合の報告 -----	9
	採卵速報 -----	10

編集後記 今回はたいぶずさんな編集をしてしまいました。今後
 もこのようなずさん編集になる可能性大であります。お許せ!! 今回原
 稿を不寄せいたたいこのせうふなからた方々。お許せ!! (網振童子)

翔 No.2, 1978年12月25日発行

発行者：百万石蝶談会 (連絡先：金沢市三口新町4-9-34)

松井正人 介, 〒920, TEL. 0762 (62) 8688)

編集責任者：松本和馬